

「インドネシア文化に親しむ会」の初の取り組みとして、広島市映像文化ライブラリー様との共同主催で、当協会会員の皆さまや一般の方を対象に「インドネシア映画祭」を開催しました。日本とインドネシア共和国の国交樹立60周年記念事業としてのロゴ認定も取得し、「珈琲哲学」(2015年)、「鏡は嘘をつかない」(2011年)、「星空の下で」(2010年)の3本を上映し、3日間で308名(うち協会会員14名)の方々に鑑賞していただきました。「インドネシア映画は初めて見たが、想像していたより10倍良かった」「インドネシアの実情が分かる貴重な映画を鑑賞できて、大変満足した」「イルカがとても綺麗で、インドネシアに行ってみたくなった」などのご感想をいただき、多くの方々にインドネシアの魅力を感じていただきました。また、広島インドネシア協会の受付に「インドネシア スラウェシ島地震 義援金募金箱」を設けたところ、鑑賞者の方々からご厚志をいただきました。



インドネシア映画祭のチラシ 広島インドネシア協会の受付

インドネシア地震募金を広島市に寄附

2018年 11月16日(金)



田村協会長から松井市長へ寄附

広島市本庁舎市長公室にて、広島市と広島平和文化センターによる「インドネシア地震被災者救援市民募金」として、田村協会長から広島市長松井一實様に50万円の目録を手渡しました。この寄附金は、協会会員からの募金をはじめ、独立記念祭やインドネシア映画祭の会場で寄せられた募金や、協会資金などによるもので、日本赤十字社を通じて被災者援助に充てられました。

インドネシア料理を楽しむ会

2018年 12月3日(月)

「インドネシア料理を楽しむ会」をインドネシア料理店「ワルン マタハリ」にて開催し、今回も多くのお申込みの中、抽選で21名の方々にご参加いただきました。美味しいインドネシア料理を味わいながら会話もはずみ、シェフ手作りのサンバル(インドネシアの調味料)プレゼントをかけたインドネシア式じゃんけん大会で、さらに盛り上がりました。

なお、「ワルン マタハリ」は、2019年3月1日に開店20周年を迎えました。これまでの当協会へのご協力への感謝とともに、今後ますますのご発展をお祈りします。



田村協会長の挨拶



インドネシア料理

在広島インドネシア留学生会(PPIH)60周年事業に協賛

2018年7月21日(土)、8月18日(土)



学会SCOPEACEの様子

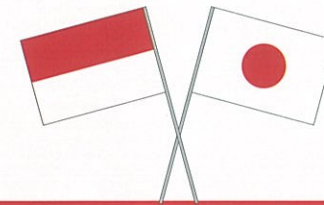


インドネシア文化祭出演者の皆さま

在広島インドネシア留学生会(PPIH)主催の国交樹立60周年記念事業に協賛しました。

学会SCOPEACE「インドネシアの威厳を保つ」(2018年7月21日(土)、広島大学)には、在大阪インドネシア共和国総領事ミルザヌールヒダヤット様や多くのインドネシア人留学生が参加しました。「インドネシア文化祭」(2018年8月18日(土)、サンスクエア東広島)は、様々な国からの参加者でほぼ満席になり、インドネシア伝統舞踊や音楽などのステージ発表、インドネシアのお菓子の試食など、バラエティ豊かな内容でインドネシアの文化を楽しむことができました。

広島インドネシア協会会報



第29号
2019年3月発行

編集・発行
広島インドネシア協会
広島ガス株総務部広報環境室
〒734-8555 広島市南区皆実町二丁目7-1
TEL (082) 252-3000

総会

2018年6月5日(火)



田村協会長の挨拶(総会)

ANAクラウンプラザホテル広島にて、「2018年度総会・交流会」を開催し、駐日インドネシア共和国大使アリフィン・タスリフ様や在大阪インドネシア共和国総領事ミルザヌールヒダヤット様をはじめとするご来賓の皆さまをお迎えし、約210名の皆さまにご出席いただきました。交流会では、広島で働く介護福祉士候補生や介護福祉士試験に合格されたインドネシアの方々をご紹介します。留学生によるインドネシア伝統舞踊も披露していただきました。留学生の舞踊は、5月に「ひろしまフラワーフェスティバル」広島ガスブース内ステージでも披露された、ヨギヤカルタ州「ナウンセカルダンス」と東カリマンタン「マウメレダンス」で、明るい曲調とコミカルなダンスが会場を盛り上げました。2018年はインドネシア共和国と日本の国交樹立60周年にあたり、大使館様から60周年記念Tシャツ100枚が協会に贈呈され、会場の皆様にお持ち帰りいただきました。当日はラマダン(断食)期間中のため、ムスリムの方々は日没時刻を過ぎて飲食を楽しまれました。



アリフィン・タスリフ大使様のご挨拶(総会)



ミルザヌールヒダヤット総領事様のご挨拶(交流会)



津村広島市国際平和推進部長様のご乾杯ご挨拶(交流会)



ご来賓の皆さま



留学生による伝統舞踊



大使館からいただいた国交樹立60周年記念Tシャツ

独立記念祭

2018年8月28日(火)

リーガロイヤルホテル広島にて、インドネシア共和国の独立73周年を祝う「インドネシア共和国独立記念祭」を開催しました。駐日インドネシア共和国大使館公使アバス リドワン様や在大阪インドネシア共和国総領事ミルザ ヌールヒダヤット様をはじめとするご来賓の皆さまをお迎えし、約250名の方々にご出席いただきました。ドレスコードは「クールビズまたはバティック」で、多くの参加者が民族衣装バティックを着用されました。帰国留学生へ記念品を贈呈し、また、日本のグループ「ババン サリ」によるバリ島伝統音楽や、留学生による西ジャワ島の伝統舞踊「メラックダンス」が披露されるなど、祝賀ムードを盛り上げました。また、会場内に平成30年7月豪雨とインドネシア(ロンボク島)地震への義援金募金箱を設置し、48,425円のご厚志をいただきました。この義援金は、中国新聞社会事業団や広島市を通じて寄付いたしました。



帰国留学生のご紹介と記念品贈呈



田村協会長の挨拶



アバス リドワン公使様 大使ご挨拶の代読



留学生による伝統舞踊「メラックダンス」



「ババン サリ」によるバリ島の伝統音楽



会場の様子

講演会

2019年2月1日(金)

ホテルセンチュリー21広島にて、講演会・交流会を開催し、約200名の方々にご出席いただきました。講演会は「注目されるムスリム・インバウンド～インドネシアから日本へ～」をテーマに、慶応義塾大学総合政策学部の野中 葉様にご講演いただきました。交流会では、留学生による楽曲や舞踊の披露、帰国留学生への記念品贈呈が行われ、賑やかで温かい雰囲気となりました。



帰国留学生代表 マルマン様によるご挨拶

ご講演要旨



講演会講師 野中 葉様

インドネシア共和国は、人口約2.6億人のうち約90%がイスラーム教徒という最大のイスラーム教徒の人口を抱える国です。「多様性の中の統一」を国是とし、様々な宗教や民族が共存しています。「ムスリム」とは、言葉上の意味は「神に帰依する人」であり、イスラーム

教徒のことを指します。また、ムスリムが神からのメッセージと信じ、生活上の指針にしているのが聖典クルアーン(またはコーラン)です。インドネシアのムスリムは比較的寛容で穏健だといわれ、民主化以降、近年のグローバル化や近代化とともに、特に若者を中心として、より真面目にイスラームを実践する人が増えていますが、教えに厳格な人も緩やかな人もおり、多様です。

近年、日本を訪れる外国人は年々増加し、2018年12月には、初めて3,000万人を超えました。インドネシア人の旅行形態は、家族や友人との団体旅行を個人で手配することが多く、日本のホテルシステムとなかなか合わないため、民泊を選択する人が増えています。リピーターも多く、ラマダン(断食)明け(2018年は6月)や桜開花時期が訪日インドネシア人数のピークですが、今後はインスタ映えする紅葉シーズンも増えると予測しています。

インドネシア人が訪日に期待することや体験したことは、日本食を楽しむこと、ショッピング、観光などが上位に挙がっています。「あると便利な情報」、すなわち「なくて困った情報」は、交通手段や飲食店関係です。日本食は食べてみたいが、日本語のハードルは非常に高いため、飲食店では「何を食べていいかわからない」「何を食べさせられるかわからない」と感じ、コンビニで白ご飯だけを買ったり、母国から持参したものを食べる人もいます。メニューには、英語表記や写真などがあるとよいでしょう。また、厳格なムスリムもいる一方で、クルアーンでは「やむを得ず」、また「違反の意思

なく」食べたものは許されるとされるため、「何が入っているか知らせないでほしい」という方もいます。受け入れ側としては、人それぞれのニーズに応じて情報を選ぶことができる、という情報提供のおもてなしが、最も簡単で最も求められていることかと思えます。また、ムスリムの1日5回の礼拝への対応として、礼拝専用スペースを用意することは難しいと思いますが、畳1畳分ほどの清潔な場所と、礼拝前に清めるための洗面所があれば大丈夫です。私のインドネシアの友人は、ショッピング中に礼拝場所を見つけることができず、デパートの階段の踊り場で礼拝したそうです。本人は大ごとだと思わなかったようですが、周囲の日本人はびっくりしたかと思えます。このように、インドネシア人本人が食事を選ぶことができる、礼拝場所を探している方に相応の場所を紹介できるということが、ムスリムおもてなしのヒントであり、「ムスリム・フレンドリー」だと考えます。

次に、近年のインドネシアの若者の特徴を3点ご紹介いたします。一点目は、「SNS大好き」です。フェイスブックやツイッター、インスタグラムの利用者数は世界第3位など、SNSを楽しむ人が多く、日本を旅行した体験が、次々にアップされています。二点目は、ポップなイスラームを受容していることです。ハラル化粧品の人気、ヒジャブ(ムスリムの女性が頭に着けるヴェール)コンテストの開催、テレビドラマで敬虔なムスリムがヒーロー・ヒロインになるなど、特に若者を中心としてイスラーム化が進んでいます。三点目は、「日本大好き」です。インドネシアはもともと親日的ですが、最近では日本語学習ブームが起きており、今や日本語学習者数の多さでは世界第2位、約74万人にもなります。その約90%が高校生で、学校の選択外国語に日本語がありますし、日本のポップカルチャー、コスプレ、JKT48(ジャカルタを中心に活動するインドネシアの女性アイドルグループ。日本国外で最初に結成されたAKB48の姉妹グループ)、日本発のレストランも大人気です。

今後、広島を訪問するインドネシア人もさらに増えるでしょう。本日よりご紹介した「おもてなしのヒント」を活かしていただき、インドネシアと広島との友好・交流のさらなる発展につながれば幸いです。



田村協会長の挨拶



会場の様子



左から
現・在広島インドネシア留学生
会長 バスコロ様
田村協会長
前・在広島インドネシア留学生
会長 マルマン様